

シンガポール発日本クルーズ乗船記(8)

清水港に寄港して最終港横浜へ

2023-8-11 池田良穂

神戸港にいる間に特別レストランの「鉄板焼」を試してみることにしました。この船のメインダイニングのサービスも料理もよかったので、クルーズ中に特別レストランは一度も使っていなかったのです。ここの鉄板焼きは、一応、日本スタイルとなっています。追加料金は1人1万円と安くはありませんが、いわゆる日本人が北米で始めたというシェフが鉄板の前でエンターテインメントをしながら調理をするというスタイルのもので、騒がしいのですが、お客は結構楽しんでいるようでした。味はというと1万円という追加料金を考えると、日本のステーキレストランの方がはるかに繊細で美味しいように感じました。まあエンタメ代込みと考えるとクルーズの中の楽しみとしては悪くはありませんでしたが。

食事をとっている最中に、船は神戸港を出港、それから1時間半ほどで友が島水道を抜けて紀淡海峡に乗り出すと少し揺れ始めました。小笠原付近にいる台風7号の影響かもしれません。

一夜明けるとうねりは大きくなり、17万総トンの船体も斜め前からのうねりで、そう大きくはないものの縦揺れと横揺れを繰り返していました。

10時半過ぎに駿河湾に入ると、海は穏やかになり、富士山の頂上付近が見えていました。静岡港に入る手前で、小型コンテナ船と東海汽船の練習船「望星丸」と出会いました。港内には栗林商船のRORO貨物船と地球が停泊しているのが遠望できました。

清水港の客船ターミナルには、たくさんの市民が出迎えにきていました。予定通り12時半には着岸、13時から下船のアナウンスが船内でありました。日本国内の2港目の寄港地なので、ここはスムーズに下船できるかと期待していましたが、その期待も見事に裏切られました。下船のための船内の長蛇の列はまったく動かず、誘導している船員に聞くと、ターミナルでパスポート検査をしていて遅くなっているらしいとのこと。すでに神戸で終わっているパスポート検査をと、疑問に思いましたが、1時間近くかかってターミナルビルに入ってみると、税関検査をしていてそこでパスポートのスキャンをして、手荷物の検査もしていました。コロナ禍が終わって、世界各地の港湾でのクルーズ客の受け入れは以前よりはるかに合理的に、迅速になっているにもかかわらず、日本だけは時代が逆行しているようで、日本人としては恥ずかしい限りでした。

とは言え、ターミナルをでてみると市民団体の方々の温かいおもてなしが待っていました。外国人客もこれで少しは癒されていれればと願うばかりです。

筆者は、美味しいお寿司を堪能して、いやな体験は少し忘れることができました。



清水港に入る前に小型コンテナ船と練習船「望星丸」に出会いました。



パイロットボート「第 6 パイロット」が水先人を運んできました。



タグボート「やまと」が離着岸支援にあたりました。



清水港の客船岸壁です。たくさんの市民が「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」の入港を歓迎してくれました。



入港の歓迎演奏も行われていました。



栗林の RORO 貨物船「新珠丸」が夕刻に出港していきました。



清水と戸井を結ぶ駿河湾フェリーの「富士」が入港してきました。



港内渡船兼遊覧船「ケー・エス」です。



港と駅を結ぶ無料シャトルバスが運航されていましたが、船内新聞には情報がありませんでした。



港には屋台や土産物店もでていました。



通訳のサービスも行われていました。

清水港を出港した「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」は、10ノット前後のゆっくりとした速度で横浜に向かいました。確かに1晩をかけて移動するには近すぎるので、それであれば出港時間を10時からに遅くして、ゆっくりと夜の陸上観光をしてもらってもよかったのではないかと思います。

翌朝、日が昇る時間にあわせて5時過ぎに起きましたが、船はすでに横浜港の大黒ふ頭に着岸していました。目の前にはベイブリッジが朝日に輝き、小型のコンテナ船が相次いで、目の前のコンテナ埠頭に入港してきました。船尾から見える岸壁にはPCCが停泊、さらに15階のデッキに登って右舷側に見える岸壁にも大型PCCが相次いで入港してきました。

下船は、指定された公室で待機していて、50番までの番号順に呼ばれてギャングウェイに向かうようになっていました。筆者の番号は26番で、9時20分予定とのことでしたが、15分ほど遅れただけで下船の指示がありました。ターミナルに並べられたスーツケースを受け取って税関を通り、外に出ると駅や空港に向かうバスの乗り場や、タクシー乗り場が設定されていました。タクシー乗り場は

長蛇の列で、炎天下で並ぶのはかなりつらい状況でしたが、テント張りの日陰に入ると風が結構あって一息。それでもタクシーに乗るまでに 40 分以上かかりました。タクシーの台数は結構いましたが、荷物を積むのと、外国人がドライバーに行き先を伝えるのに時間がかかって、列がなかなか進まないという状況のようでした。シンガポールの新ターミナルのタクシー乗り場のシステムが参考になるかもしれないと感じました。

「スペクトラム」のような 4700 名という大量の乗客を積む大型クルーズ客船の受け入れが始まり、日本のクルーズ受け入れも、その対応が求められているように思います。今回のクルーズでは、シンガポールに住む人だけでなく、アメリカ、オーストラリア、欧州等からの大量のフライ&クルーズ客が乗船しており、団体のバスツアー等を選択する乗客の数はせいぜい 20%程度で、80%余りは個人で行動する乗客でした。すなわち 3800 人余りが個人で行動する客ということになります。この個人客への対応が今後大事になるように思います。